

2017年11月8日
ナブコシステム株式会社

創立60周年記念式典を挙行

ナブコシステム株式会社は、2017年11月7日に創立60周年を迎えました。
同日、当社社員をはじめ、関係会社の方々にもご出席いただき、記念式典を執り行いました。
弊社代表取締役社長 山村が式典で述べた挨拶は、以下の通りです。

■創立60周年記念式典挨拶

創立60周年記念式典にあたり、ご挨拶申し上げます。

弊社の創立は今より60年前、すなわち1957年11月7日です。取りまく環境が厳しい中、この日を迎えることが出来たのも、ナブコ自動ドアをご愛顧頂いておりますお客様をはじめ親会社様、諸先輩方、社員、そのほか関係先様の絶大なるご支援の賜物であり心から厚く御礼申し上げます。

創業当時は「もはや戦後ではない」という言葉が使われ、日本経済が飛躍的に成長を遂げる真っ最中にありました。1955年から1973年の18年間は、年平均10%以上の経済成長を達成いたしました。エネルギーは石炭から石油に変わり太平洋沿岸にはコンビナートが立ち並びました。コカ・コーラが発売開始、五千円札・百円銀貨が発行されNHKがカラーテレビの実験放送を開始し、翌年の1958年12月には東京タワーが完成し私が生まれたのもこの年です。1962年には首都高速道路初の路線として、京橋～芝浦（4.5Km）が開通しました。日本の空の玄関口羽田空港は、大型ジェット旅客機が次々と就航し更に各国から新規乗り入れ航空会社が相次ぎました。1964年には東京オリンピックが開催され、1968年には日本初の超高層建築「霞が関ビルディング（147m36階）」が竣工しました。

弊社の第1期には自動ドア年間取付台数5台であったものが、今では3万6千台以上まで成長しております。社員数も第11期に初めて100人に達しましたが、現在は約860人に達しております。

2008年9月に発生したリーマンショックで世界市場が混乱に陥り、円高による輸出産業のダメージから日本はなかなか脱することが出来ませんでした。更に2011年の東日本大震災に続き、福島第一原発事故が起り深刻な時代が続きました。弊社もその時期に行なった販売戦略の見直しに失敗し、多くのお客様からの期待と信頼を失うこととなりました。自動ドア年間取付台数も3万台を下回り、東日本での市場占有率も1ポイント以上下げてしまいました。特に顕著であったのが東北地区の下落率で、北海道・関東・上信越の踏ん張りも全体を支えるに至りませんでした。

2014年より「コアビジネスは自動ドア」「通行者の安全が第一」を合言葉に社員一同が一体となり建て直しを行なってまいりました。メーカーであるナブテスコ株式会社様、販売会社仲間のナブコドア株式会社様・オリエント産業株式会社様に大きな支えを頂きながら本日の創立記念式典にたどり着くことが出来ました。これらの支えを生かすことが出来たのも創業より現在まで、その時々先輩方が凡事徹底されたナブコ魂があったからと心より感謝しております。

現在は、昨年2016年にナブテスコ株式会社様との連結関係が構築され、益々「通行者の安全」と「利益ある成長」を目指して強い絆が出来上がりました。今年10月には、更なる安全性と耐久性を兼ね備えた新型自動ドア「NATRUS」が発売され、製販一体となりカタログに至るまで共に作り上げたこの製品こそ、歴史の次の一歩であると確信しております。

順風満帆の歴史などあるはずもなく、弊社も様々な苦難を乗り越えてまいりました。これからも同様に歴史を積み重ね、先輩方の様に胸を張って次の世代に引き継ぎ続けるには、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていく精神が必要と考えております。最後になりましたがこのたび60年という大きな節目に際しまして、皆様のご厚情に重ねて感謝申し上げますとともに、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年11月吉日

ナブコシステム株式会社 代表取締役社長 山村 望

以上

<http://www.nabcosystem.co.jp>
